速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報
ＪＲ総連 東北地方太平洋沖地震 緊急対策本部情報
2011年3月29日
21：30発行　№26
発行：全日本鉄道労働組合総連合会

頑張ろう！被災者のみなさん。

生死を分けたわずかなタイミング

遠方からの物資配送に喜び

支援行動レポートvol.13

【24日は気仙沼に】

宮古での活動を23日に終え、盛岡地本に戻ってきたＪＲ総連とＪＲ北海道労組４名は24日、気仙沼に向かいました。気仙沼の組合員からは、「組合員宅に８家族が避難同居。ストーブが一台しかない」「電気が復旧していない、ラジオや電池が欲しい」「食事が大変で、カセットコンロとボンベが欲しい」など、予め不足物資が伝えられていたため、これらも積み込みました。ＪＲ東労組盛岡地本・佐々木組織部長と高橋総務部長も同行します。

途中の東北自動車道では全線で一般車両も通行が可能になったとはいえ、交通量は比較的少なめです。新幹線車掌の高橋総務部長は、地震当日、乗務していた列車がトンネル内に停止し、閉じこめられたそうです。トンネル内での大きな揺れがとても怖かったことや、満員の車内ではそれほど寒さを感じなかったなど、リアルな体験を道中で語ってくれました。それでも高橋部長は、津波に襲われた被災地域を実際に見るのは初めてです。車が気仙沼に入り、被害地が目の前に開けると、やはり「うわぁー！」という驚愕の第一声をあげました。

気仙沼では、届け先の組合員宅への道はふさがり、車は通行する事が出来ません。歩いて１時間かかることから、直接届けることを断念し、現地に住む一関支部の役員に物資を託すこととしました。彼に「北海道から来ました」というと、驚きながらもとても喜んでくれました。

また地震のとき子供を迎えに行っていて、「あと３分逃げ遅れていたら、津波の被害に遭っていた」と当日の恐怖を語ってくれました。わずかな時間差で生死をわけた大津波。その話を聞いて、私たちは皆そろって凍り付いてしまいました。

被災地での悪条件を克服し、励まし合いながらお互いに前へ動き出す仲間たち。その連帯・絆が、この苦難を必ず乗り越えられるとこの物資輸送を通じて確信しました。

続いて、街全体が壊滅的な被害を受けた、陸前高田市に向かいます。

（つづく）

【写真上】新幹線の乗務中、地震に遭遇したＪＲ東労組盛岡地本高橋総務部長(左から２番目上)／壊滅的な被害を受けた気仙沼市(3月15日撮影)